

第三回土木工事写真コンテスト審査結果発表

応募総数147作品と、たくさんのご応募ありがとうございました。
応募作品全てに対して「応募要件を満たしているか」「安全上問題のない現場となっているか」のチェックを行い、土木写真家/西山芳一氏をお迎えした写真審査幹事会ならびにJCMマンスリーレポート編集委員会に於いて厳粛に審査を行った結果、下記のとおり決定いたしました。

おめでとうございます

◆最優秀賞（賞金5万円）*今号の表紙の写真です

『鶴田ダム再開発』 山田宏作 様（株式会社九州タブチ/鹿児島）

◆優秀賞（賞金1万円）

『今日は残業。う～さぶっ!』 加賀見裕真 様（山梨建設株式会社/山梨）

『仕事を終えて』 前納 裕 様（朝日丸建設株式会社/三重）

『地上70mの足場』 井上 誠 様（自営業/東京）

『早朝の霧の中での重機作業』 有馬正一郎 様（株式会社笹田建設/鹿児島）

『リフター使用の500tクレーン 解体も簡単』 後藤尚史 様（株式会社鴻池組/千葉）

◆入選（クオカード5千円）

『雪捨場の休日』 平田 学 様（岩田地崎建設株式会社/北海道）

『待望の完成までもうちょっと!』 武山航耶 様（株式会社丸本組/宮城）

『大空に架ける橋』 村田昭好 様（エム・エムブリッジ株式会社/広島）

『施工中の現場をイルミネーションでイメージアップ!』 中山 猛 様（株式会社熊谷組/東京）

『美しい湖面』 紅露雅之 様（北海道）

『工事車両が架設陸橋に行く』 紅露雅之 様（北海道）

受賞作品は今後マンスリーレポートで紹介いたします。また、これまでの応募作品はHPよりご覧になれます。
http://www.ejcm.or.jp/photo_contest/

審査講評

土木写真家 西山芳一

三回目を迎えることで土木工事写真コンテストもようやく認知度が上がり、意を決して出してみようと思った方が増えたようで、一昨年、昨年を三割ほど上回る応募を頂きました。審査をさせていただく側としても楽しく、こちらも勉強になる作品も増えてきたことに感謝いたします。ただ、比率的に優秀な作品が増えているかといえば



審査風景

そうでもなく、まだまだ基本的な写真の技術、例えばピントやブレ、画面の傾きや構図などをないがしろにして応募してくる方もいらっしゃるようです。たまたま良いシャッ

ターチャンスに遭遇して写真が撮れたからといってすぐに応募するのではなく、十分に吟味してから応募しましょう。写真は一期一会と言いますがそれはプロやハイアマチュアの言葉であり、シャッターチャンスは決して一度だけではありません。特に自身の工事現場で撮っておられる方は何度もチャンスが有るはずです。同じ被写体を時間を変え、アングルを変えて観察し、撮影するだけで写真の腕はどんどん上がりますし、携わる土木構造物にもより愛着が湧いてくるはずです。

次に今年の応募作品の特徴としてはドローンによる空撮写真が増えたことでしょう。世間を賑わした墜落事故が多いことで昨年の12月に国交省が飛行の規制を出しましたが、基本的には人口密集地域に入らない多くの土木工事現場での飛行は許可申請をしなくとも可能です。機体やシステムの急激な進歩により操作の簡単なドローンが安価で販売されたこともあって取り入れた現場も多いと聞いています。しかし、応募された殆どの空撮写真はただ単に上空から撮影しただけの作品になってしまいました。飛行機やヘリの本格的な空撮と違い許可申請をしなければドローンの飛行高度は150mまでと低いのですが、それが空撮特有の平面的な写真でなく、立体感や遠近感をも表現できる無限のアングルを生み出してくれるはずです。ただし、人物から少なくとも30mは離して撮影してくださいね。

近年、ダムやトンネル、海外の港湾や橋梁などの大型土木工事の発注が増えてまいりました。一般のメディアにも「土木」という言葉が今後どんどん出てくることでしょう。受賞された方々には厳しい批評の言葉もあろうかと思いますが、この「土木

工事写真コンテスト」が、なお一層、応募者の皆様に写真の腕を上げていただき、供用者である一般の方々に「土木」というものを正確に、また美しく伝え、理解していただく手助けができればと思っておりますので、何卒、ご理解、ご容赦いただければ何よりです。

【最優秀作品講評】(表紙の写真)

堤体の全体像を丁度よい高さから一望できる撮影アングルに恵まれたダムですが、この作品の受賞は撮影したタイミングの勝利と言えるでしょう。長期に渡る工事期間の中で画面全体に動きのあるタイミングを選び、そして一日の中でも画面の中で多数の色が交差する夕暮れを選んだタイミングです。空の青みが残っているのも秀逸だと思います。水の流れは十秒以上の長時間露光をものがたり、静止した画面の中にも水やクレーンのブレで動きを感じさせています。

西山 芳一／土木写真家

東京造形大学 デザイン学部写真学科卒。

広告代理店博報堂、東急エージェンシーを経てフリーに。

日経コンストラクション創刊準備号にて初めての土木撮影。

土木写真家として土木中心の撮影に移行、現在に至る。

「土木を撮る会」事務局長。

写真集

「港湾遺産」埋立浚渫協会(2002年)

「タウシュベツ」講談社(2002年)

「水辺の土木」INAX出版(2003年)

「トンネル」施工技術総合研究所(2005年)

「美しい土木・建設中」パイインターナショナル(2013年)

「UNDER CONSTRUCTION」マガジンハウス(2013年)

「鉄道遺構再発見」LIXIL出版(2015年)

このほか写真展や講演等多数

*2016年6/24～9/25に開催予定の『土木展』では

大型パネルの作品を複数展示予定

(会場：東京ミッドタウン・ガーデン内「21_21」)



第四回募集スタート！ 応募要項を御確認の上、オンラインよりご応募ください。